

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（ 小論文 ） 試験時間：（ 60分 ）

【解答欄】

設問 1

設問 2

設問 3

実験参加者が自分の意思で10個のチョコレートから5個を選択するという点は共通している。異なるのは、最初に10個のチョコレートが捨て皿に置かれているのか、取り皿に置かれているのかということである。このことは、選び取るものを選択するのか、捨て去るものを選択するのかという違いとなる。(140字)

設問 4

この実験では、最終的に得られるチョコレートは5個と変わらないにもかかわらず、選択条件と放棄条件では、前者の方が満足度が高い結果であった。このことは、両条件とも理屈上は5個のチョコレートを選択するという同じ課題であったが、選択して選び取ることと選択して捨て去る（放棄する）こととは心理的に異なる行為であったことを示し、放棄する方がさまざまな葛藤を生み出し、心理的に困難な課題であったと推察される。(197字)

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（ 小論文 ） 試験時間：（ 60分 ）

【解答欄】

設問 5

採点基準

- ・ ナッジとブーストの特徴をおさえているかどうか。
  - ・ ナッジは人のバイアスを活用してよい判断や意思決定に導く方法である。
  - ・ ブーストは明確な形で情報を与え、その情報の意味をしっかりと理解する認知的技量を高め、合理的な判断や意思決定を行えるようにする介入方法である。
  - ・ それぞれ長所と短所があり、うまく使い分けることが必要である。

など。
- ・ 気を付けるべきことがのべられているかどうか。
  - ・ 対象者に対して：管理責任者の施設構成員の把握  
構成員が仕事に対してどのようなナッジをもつ傾向があるか、どの程度の認知的技量を有しているかなどを把握することで、ナッジとブーストの使い分けを考える。
  - ・ 施設として判断する／意思決定を行う内容に関して吟味：  
誰に対しても有害でないこと、透明性が高いこと、など
  - ・ 管理責任者自身の自覚  
管理責任者自身も、日常生活でどのようなナッジが存在し、それによってどのような判断や意思決定に導かれやすいか自分の特徴をよく知ることが大切。  
自己の認知的技量を高める努力を怠らないことも重要である。

など
- ・ 文章の論旨が通っているかどうか。
- ・ 誤字脱字がないか。

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（ 小論文 ） 試験時間：（ 60分 ）

【解答欄】

設問 5

採点基準

- ・ ナッジとブーストの特徴をおさえているかどうか。
  - ・ ナッジは人のバイアスを活用してよい判断や意思決定に導く方法である。
  - ・ ブーストは明確な形で情報を与え、その情報の意味をしっかりと理解する認知的技量を高め、合理的な判断や意思決定を行えるようにする介入方法である。
  - ・ それぞれ長所と短所があり、うまく使い分けることが必要である。  
 など。
- ・ 気を付けるべきことがのべられているかどうか。
  - ・ 対象者に対して：管理責任者の施設構成員の把握  
 構成員が仕事に対してどのようなナッジをもつ傾向があるか、どの程度の認知的技量を有しているかなどを把握することで、ナッジとブーストの使い分けを考える。
  - ・ 施設として判断する／意思決定を行う内容に関して吟味：  
 誰に対しても有害でないこと、透明性が高いこと、など
  - ・ 管理責任者自身の自覚  
 管理責任者自身も、日常生活でどのようなナッジが存在し、それによってどのような判断や意思決定に導かれやすいか自分の特徴をよく知ることが大切。  
 自己の認知的技量を高める努力を怠らないことも重要である。  
 など
- ・ 文章の論旨が通っているかどうか。
- ・ 誤字脱字がないか。

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【1】

【解答欄】

「うちの会社そーゆーの集めてんのかな」という考え方の妥当性を考えるには、「採用された人でドジをしなかった人はいないか」、および、「採用されなかった人でドジをした人はいないか」を検討する必要がある。

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【2】

【解答欄】

1)

寄付しないと考える。

本文に「今回は1万円で救えるのは、10人の子どもの命。しかし、大半の人は寄付しないと思います」と書かれているように、私自身も、寄付しないと考える。10人の子どもの命が救えることは、非常に重要で意義深いことであるが、目の前に赤ちゃんが落ちてきたほどには、身近なこととして、捉えられないため。

2) 倫理的な観点、また道徳的な観点から考えると、非常に難しい問題である。しかし、進化論的な立場から考えてみたい。

狩猟採集の時代には、身近な人たちと、小集団で暮らし、行動していた。その集団内での人間関係はとても重要で濃密で、何かあると、お互いに助け合っていた。集団内で、例えば溺れている子どもを助ければ、自分が英雄になる可能性があるし、その子が、その集団の命を救うようなリーダーになる可能性もある。一方、狩猟採集の時代には、別な集団とは、ほとんど関係を持たず、他の集団で何が起きているかを知る由もなかった。そのような関係性にある、他の集団の子どもを助けたとしても、その集団からは感謝されるかもしれない。しかし自分が所属している集団の人たちは、何も知らないままであろうし、また、助けた子どもが、自分たちの集団の命を救うようなリーダーになる可能性は少ないと思われる。

このような古代からの考えや風習が、自分たち自身の体の中に、脈々と植え付けられているのではないかと思われる。このような観点で考えると、身近ではない、難民キャンプにいる子ども10人を救うために、寄付しないという理由として、説得力があるのではないかと思われる。

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【3】

【解答欄】

1)

後者である田中さんに関しては、A～Eの実験参加者に与えられた情報がそれぞれ異なっていた。また、その情報量は「頭脳明晰」、「冷静沈着」などそれぞれ1つであったが、5人がもっている情報量を合計すると5つになる。しかし、前者である鈴木さんに関しては、A～Eの実験参加者に与えられた情報は同じで、情報量は「明朗・誠実・行動力あり」の3つであった。

前者が選ばれた理由としては、本文中に書かれているように、話し合いの場で、事前にもっている非共有情報がうまく交換されなかったと思われる。つまり後者である田中さんに関する情報が、話し合いの場でうまく共有されなかったと思われる。すでに共有されている情報が話題になりやすかったため、結果的に、前者の鈴木さんが選ばれたと思われる。

2)

話し合いの場において、非共有情報のやりとりを促進するために、次のような工夫が考えられる。まず、話し合いのための時間をきちんと確保すること、参加者1人1人の発言の機会をしっかりと設けること、話し合いの内容を視覚化すること、場合によっては、話し合いに向けたレジメなどを各自が前もって用意して、事前に、誰がどのようなことを知っているのかに関する情報を共有できるようにする、などが挙げられる。職場では効率を高めることが必要と思われるが、それぞれが意見を述べ、また他の人の意見をしっかりと聴くという良好なコミュニケーションが重要であると考えられる。

(受験番号 )

[ここに入力]

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【4】

【解答欄】

1)

自分が大切にしていたものについては、自分が、別なところに置いた可能性もある。しかし、そのことを忘れてしまい、本来置いたと思っている場所になかったため、盗まれたと考えた可能性がある。またお金が盗まれたとってしまう理由は、お金を使ったことを忘れてしまい、まだこれだけの金額があるはず、と考えた可能性がある。本人の記憶の中では、うそを言っているわけではなく、また不条理に怒っているわけではなく、正しいことを述べていると思っている。

2)

本人としては、本来あるものがないため、誰かが盗んだに違いない、と正しいことを言っていると考えている。また「急に気分が落ち込んだり、気持ちがコントロールできないため、ストレスを溜めないように気を付けている」といった発言もあり、自身の言動に、違和感をもつようになってきている。このような場合、関わり方およびコミュニケーション面としては、すぐに否定せずに、その人の気持ちを受け止める、気持ちが落ち着くような方向に話をもっていくことが、重要であると考えられる。家族として、時には、一緒に買い物に出かけることも大切であると思われる。そのような機会は家族としてもリラックスにつながる可能性がある。また環境面としては、ものの置き場所を決めて、その場所にメモ（「ここは〇〇の場所」など）を貼る、その人の居住スペース（環境）を本人の了解を得ながら、できるだけ整理整頓するなど、暮らしやすい工夫を心がけることが必要である。

(受験番号 )

[ここに入力]

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【5】

【解答欄】

連絡帳拝見しました。小学2年のAちゃんと手のかかるBちゃんのお世話大変ですね。月2回、Bちゃんの療育に通われているとのこと、よくなさっていると思います。Bちゃんの気持ちの読み取りがむずかしく、今後の発達についていろいろ不安がおありになり、お辛くなることも多いと思います。そのお気持ちを、私たち学童クラブの職員に、よく知らせてくださいました。私たちは、いつでも保護者の皆様のよき相談相手でありたい、お力になりたいと思っています。

お母様はAちゃんに申し訳ないと書かれていますが、Aちゃんは学童でとても元気で明るく、だれにでも優しいです。お母さま、お父様の愛情をAちゃんはしっかりと受け取っているのだと思います。そして、ご両親のBちゃんへの関り方をよく見ていて、Bちゃんのお世話のお手伝いをしているのだと思います。

お母さまがゆっくりとお休みになれるときはありますか。お母さまをどのようにサポートできるか学童スタッフ間でも話し合います。また、必要に応じて他の機関とも連携を考えていきたいと思っています。どうぞ、お一人で抱え込まずに、いつでもご相談ください。

2026年度大学院入試問題（2026年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（専門科目 言語聴覚・英語） 試験時間：（120分）

【設問記号を入力してください】

【解答欄】

1. This book can be seen as a critical examination of modern society, in which people tend to undervalue listening and fail to truly listen to others. It discusses the importance of genuine listening and explores ways to improve this skill. For example, the author notes that contemporary culture emphasizes self-expression and broadcasting one's own views, while offering little training in careful listening. From this, it can be inferred that the author aims to warn readers about the decline of listening skills and to encourage their recovery.
2. As a future speech therapist, I aim to support individuals who face communication difficulties using language so that they can live more independent and fulfilling lives. I hope to develop strong clinical skills through continuous learning and practical experience. In particular, I want to work closely with patients and their families, listening carefully to their needs and concerns. By cooperating with other healthcare professionals, I would like to provide effective and compassionate support. Ultimately, my goal is to help people communicate with confidence and participate actively in society.

(受験番号

)